

ニュージーランドにおけるオリンピック教育 ―教師用資料「スポーツを通しての倫理」―

Olympic Education in New Zealand : Instructor Resource “Ethics Through Sport”

田 原 淳 子, 池 田 延 行

Junko TAHARA and Nobuyuki IKEDA

は じ め に

ニュージーランドでは、教育省がオリンピズムの教育的価値に着目し、学校のカリキュラムで保健体育の理念にオリンピズムの考え方を取り入れている。特に、保健体育の主要分野の一つであるスポーツ学習では、オリンピズムを具体化した学習内容で構成され、それらに立脚した指導書が教育省から発行されている (田原・池田、2008)。

こうしたニュージーランドの保健体育学習を補強し、さらにスポーツに関心をもつ学校以外の幅広い層にもオリンピズムを普及・促進していくことを目的として、ニュージーランドオリンピック・アカデミーは教師用資料「スポーツを通しての倫理」“Ethics Through Sport”を2007年に制作し、全国の学校を含む関係機関に広く配布した。

本研究では、この教師用資料を取り上げ、その内容を検討するとともに、制作の指揮をとったニュージーランドオリンピック委員会・オリンピック博物館長のチャールズ・カリス (Charles Callis) 氏、および当時のニュージーランドオリンピック・アカデミー会長として制作に深くか

わり、また本人もDVDに登場しているイアン・カルパン (Ian Culpan) 氏 (カンタベリー大学教育学部准教授) にインタビューを行い、この資料開発の背景、意図、展望などを聞いた。

日本の学校では、人格形成にかかわる精神面や倫理的な内容になると、体育やスポーツよりもむしろ道徳の授業で扱われることが多いようである。そこで、ニュージーランドでは、倫理的な内容をどのように体育の資料・教材として取りあげているのか、その構成と内容を明らかにした。また、近年のオリンピック教育の教材開発は、印刷費などの経費削減やより広い頒布のために、冊子体からインターネットの活用やCD、DVDなどのデジタル媒体に移行しつつある。つまり、スポーツを通した倫理教育と教材のデジタル化の両面において、ニュージーランドの事例から得られる示唆は少なくないと思われる。

I. 教師用資料「スポーツを通しての倫理」

1. 内容の概要

この教師用資料は、ニュージーランドオリンピック委員会のオリンピック博物館における展示「スポーツを通しての倫理」を発展させたもので、

17～18歳（ニュージーランドで13年生）の高校生を指導対象としている。そこでは、将来への挑戦と、オリンピック・ムーブメントの哲学（オリンピズム）において具体化される普遍的、基本的な倫理的諸原則を調べることに焦点が当てられている。

学習活動は、次の3領域で若い人々に情報を提供し、チャレンジさせるようなテーマで展開される。

- 1) 倫理的な生活の諸原則を、どのようにスポーツを通じて学ぶことができるか。
- 2) スポーツをめぐるどのような社会的な要素が、スポーツにポジティブなあるいはネガティブな影響を与えうるのか。
- 3) これらの社会的なチャレンジによって、どのようにスポーツを通じて学習を深めることができるか。

この教材は、ニュージーランドの保健体育カリキュラム（1999, 2007）に沿った内容であり、スポーツ学習のレベル8で、カリキュラムの根本にある「態度と価値の概念とそれらのオリンピズムとの関係」に対応している。

学習成果として、生徒たちは次のことを批判的に分析することが求められる。

- ・倫理的な態度、価値、振る舞いを発展させる上でのスポーツの役割
 - ・スポーツを通じての倫理の学習と実践に影響を与える要素
 - ・スポーツにおける非倫理的な実践が、どのように自分自身、他人、社会の健康や安全に影響しうるか
 - ・スポーツにおける倫理的な振る舞いを促進したり妨げたりするような社会的な態度と実践
- 学習活動のテーマは以下の4つである。

- ①スポーツの価値
- ②スポーツを通しての学習
- ③スポーツを通しての倫理の学習
- ④倫理的なスポーツ実践への影響

2. CD-Rom資料

CD-Romには、以下のファイルが含まれている。

- ・資料の活用方法
- ・学習活動の教師用手引き（上記4つのテーマ別）
- ・基準達成のための評価タスク
- ・ワークシート集
- ・教室で使用するパワーポイント用スライド集
- ・各種ポスター

3. DVD資料

DVD資料は、全体で40分の長さで、主にスポーツの各界を代表する人々のインタビューで構成されている。彼らは、スポーツの指導には身心一体の全体的なアプローチが必要であることや、スポーツでは技能や勝敗に囚われることなく、人間としての教育がいかに重要であるかを語っている。個々のタイトルおよび副題は以下の表に示すとおりである。

インタビューに登場しているのは以下の人々である。

- ・イアン・カルパン（ニュージーランドオリンピック委員会オリンピック・アカデミー会長）
- ・グレイム・スティール（ドラッグフリー・スポーツNZエグゼクティブディレクター）
- ・ジャン・キャメロン（スイミング・ニュージーランド、コーチング・ハイパフォーマンス・ディレクター）
- ・サラ・ウルマー（オリンピックアンバサダー）
- ・ダラス・セイマー（前オールブラック、ニュージーランド・マオリ・アンド・セブンズラグビー代表。クアラルンプール開催コモンウェルス・ゲームズ、ラグビーセブンの金メダリスト）
- ・ローナ・ギレスビー（ニュージーランド、体育シニアアドバイザー）
- ・グレッグ・オーク（カイロプラクター、2004

年アテネオリンピック競技大会、メルボルン
開催 2006 年 コモンウェルス・ゲームズ ヘル
ルスチームメンバー)

・ヒュー・ガルバン（カンタベリー大学教育学
部、体育・スポーツコーチング上級講師）

チャプター	タイトル	副題
1	共に高い志を目指し、卓越する	スポーツを通じた倫理
2	スポーツの意義を探る	貴重な実践活動
3		オリンピズム：人々を一つにする
4	スポーツを通じて倫理を教え、学ぶ	教師としてのコーチ
5		体育教師
6	スポーツを通じて倫理を学ぶ上での障害	フェアプレーを脅かすもの
7	スポーツを通じて倫理を教え、学ぶ	教師としてのコーチ
8		アスリートと学習
9		フェアプレーを行動する
10		教師としてのコーチ
11		教師としてのコーチ
12	スポーツを通じて倫理を学ぶことを阻む 障害	フェアプレーを脅かす要因
13	スポーツを通じた学習を阻む障害を克服 する	プロフェッショナリズムと倫理的な行動
14	スポーツを通じて倫理を学ぶことを阻む 障害	プロフェッショナリズムと勝利のプレッシャ ー
15		コマーシャリズム
16	スポーツを通じて倫理を教え、学ぶ	テクノロジーとスポーツのフェアネス
17	スポーツを通じて倫理を学ぶことを阻む 障害	スポーツにおける薬物
18		ナショナリズムとメディア
19	スポーツを通じて学ぶことを阻む障害を 克服する	社会的責任とメディア
20	スポーツの目的	生きるための学習 ー 生涯学習
21	スポーツを通じて学ぶことを阻む障害を 克服する	体育の価値
22		ポジティブな行動から生まれるポジティブな 結果
23		社会におけるオリンピズムの価値

Ⅱ. 制作関係者へのインタビュー

教師用資料「スポーツを通しての倫理」についてより深く理解するために、関係者にインタビューを行い、項目ごとに整理した。

1. 制作の動機について（チャールズ・カリス氏）

- ・オリンピックに関する資料のなかで、倫理というテーマはこれまでも取り上げられてきたが、学校に配布できるような学校向けの資料がほとんどなかった。つまり教師が「スポーツを通しての倫理」について学ぶ資料がなかった。また、倫理をスポーツの実践を通して学ぶ方法を知ることが重要であると感じていた。
- ・プロスポーツの世界で、商品化されるアスリートの現状をみると、倫理、フェアプレー、そしてコーチの役割に注目したかった。そして、それらを明確にするためにも教材を作成したかった。

2. 制作の意図について（チャールズ・カリス氏）

- ・様々な専門家がもつスポーツを介した倫理観について考えを聞きたかった。特に、関心があったのは、「フェアプレー」と「コーチの意義」である。フェアプレーは、今日、商業化やアスリートの商品化などとの関係で切実な課題である。また、コーチは倫理的行動を教える立場にあり、アスリートの競技成績はもちろんのこと、生き方にも莫大な影響を与える。

3. 制作過程について（チャールズ・カリス氏／イアン・カルパン氏）

この教師用資料は、NOC（この場合、ニュージーランドオリンピック委員会）とNOA（この場合、ニュージーランドオリンピック・アカデミー）とカンタベリー大学との共同制作によって完成されたことが注目される。以下に、機関別の分担を記す。

〔NOC〕

- ・企画
- ・国際オリンピック委員会（IOC）のオリンピ

ック・ソリダリティによる資金調達

- ・インタビュー対象者の人選
- ・カリキュラムの専門家を招聘し、インタビューを実施、分析、編集
- ・NOAに資金を提供し、教師向けの教本作成を依頼

〔NOA〕

- ・オリンピック・アカデミーの教育部で教材キットの作成を大学に委託

〔大学〕

- ・高校生を指導対象とした体育カリキュラムと制作されたDVDを関連づけた教師用資料の執筆・作成
- ・教師向け研修会の実施（講師は大学スタッフ、スタッフの旅費および費用はNOA/NOCが負担）

4. DVD制作の意義について（イアン・カルパン氏）

- ・対象者は、教師の他、スポーツのコーチ、スポーツに興味のある地元の人たち、学生、スポーツ運営団体の人なども含まれる。
- ・スポーツを通して何かを教えようとするのがねらいで、スポーツをやった結果、何かを学ぶ、スポーツをすることによって様々なことが学べることを伝えたかった。
- ・このDVDは教育とは何かという根本的なことを教えてくれる。

5. 教師用教材の評価について（チャールズ・カリス氏）

直接話を聞いたカリキュラムの専門家からは大変貴重な教材だという良い評価が得られている。しかし、実際に使用した教師からのフィードバックは得られていない。今後は、内容の方向性や、改善すべき点の有無、教材の製造の是非などについても使用者からの感想を把握していきたい。

Ⅲ. 日本におけるオリンピック教育推進への示唆

(まとめに代えて)

ニュージーランドのオリンピック教育として、新しく発行された教師用資料「スポーツを通しての倫理」を対象に資料・情報を収集し、関係者へのインタビューを行った。検討の結果、この資料の特徴は、以下のように要約することができる。

- 1) ニュージーランドオリンピック・アカデミーが制作し、オリンピックなどオリンピック関係者も登場しているが、内容はオリンピック大会に関するものはほとんど含まれていなかった。オリンピック大会よりもむしろ、スポーツを通しての人間教育に重点が置かれて編集されている。
- 2) 教師や指導者が使いやすい工夫と多彩な情報提供がなされていた(カリキュラムとの関連づけ、教師用手引き、映像DVD、パワーポイント資料、ワークシート、ポスター、評価タスク)。
- 3) 複数の関係機関(NOC, NOA, 大学)がそれぞれの特徴を生かして共同制作で実現させた。

日本では、平成20年の学習指導要領の改訂で、中学校保健体育(体育理論)にオリンピックについての学習が新規に導入されるなど、教育行政においてもオリンピックの国際的、社会的価値への着目と関心が高まりをみせている。しかし、実際に学校現場で指導するだけの十分な資料・教材が整っているかといえ、まだ不十分であるといわざるを得ない。

東京が2016年オリンピック・パラリンピック大会の開催地に立候補したことに関連して、招致委員会が中心になり、小中高校向けの『オリンピック学習読本』(特定非営利活動法人東京オリンピック・パラリンピック招致委員会, 2008)が作成・発行された。これは、東京都・招致委員会・日本オリンピック委員会の三者による発行であり、その意味では関連機関の連携がとれた発行物であるといえよう。しかし、配布先は主として東京都内の学校に限定され、全国で使用されるまで

には至っていない。東京都教育庁は都内のスポーツ教育推進校に対して、オリンピック教育を重点テーマとした研修会を実施したが、同書が学習指導要領に準拠した内容構成になっていないこともあり、その使用方法について教師の間で戸惑いがあることも事実である。また、日本の学校におけるオリンピック教育の推進が、招致活動に後押しされたものであることも否めず、継続的・普遍的なオリンピック教育の実践という面で不安が残る。日本オリンピック・アカデミーでは、オリンピック教育の教師用参考書としての使用も視野に入れて、『ポケット版オリンピック事典』(2008年)が発行されたが、その使用程度などについては把握されていない。

こうした日本の現状を考えると、本研究で明らかになった上記3つの特徴は、いずれも日本ではまだ十分達成されておらず、その意味でニュージーランドの例に学ぶべきことは少なくない。何のためのオリンピック教育なのかを考えると、ニュージーランドが1894年のIOC設立当初から委員に入りながら、未だかつて一度もオリンピック大会を開催・招致したことがない国であることも、付記しておく意味があるであろう。スポーツを通して倫理を学び身につけることがオリンピックの一つの核心である。

今後は、本研究で扱った教師用資料をさらに精査し、他のオリンピック教育関連資料との比較検討を重ねていきたい。

なお、本研究は2009年度国士舘大学体育学部附属体育研究所研究助成により実施された。

参考文献

- Olympic Academy (2007) Ethics Through Sport. Olympic Education Teacher Resource, A resource supporting Year 13 Physical Education, New Zealand. (CD-Rom and DVD).
- 田原淳子・池田延行(2008) ニュージーランド学校体育の「スポーツ学習」におけるオリビズムの位置づけ. 国士舘大学 体育研究所報 27: 87-91.
- 特定非営利活動法人東京オリンピック・パラリンピッ

ク招致委員会（2008）みんなをむすぶオリンピック
ー夢・感動・情熱ー（オリンピック学習読本 小学
校）。東京都，財団法人日本オリンピック委員会，特
定非営利活動法人東京オリンピック・パラリンピッ
ク招致委員会。

特定非営利活動法人東京オリンピック・パラリンピッ
ク招致委員会（2008）世界を結ぶオリンピックー情
熱，人，スポーツー（オリンピック学習読本 中学
校）。東京都，財団法人日本オリンピック委員会，特

定非営利活動法人東京オリンピック・パラリンピッ
ク招致委員会。

特定非営利活動法人東京オリンピック・パラリンピッ
ク招致委員会（2008）未来と結ぶオリンピックー勇
気・地球・共生ー（オリンピック学習読本 高等学
校）。東京都，財団法人日本オリンピック委員会，特
定非営利活動法人東京オリンピック・パラリンピッ
ク招致委員会。